

四日市市立水沢小学校

学校だより

令和6年5月22日 第11号

ふれあい



上級生が下級生の面倒を見てくれています。

20分休みやお昼休みの長い休み時間には、好天の日だと多くの子どもたちが運動場へと出て、異学年で混じって遊んでいます。サッカーやドッジボールをしたり、鬼ごっこをしたり、とにかく学年関係なく、みんなが集まって遊んでいます。こんな微笑ましい光景があらこちらで見られ、私はうれしく思います。

公立の小学校は、同じ地域の異年齢の子どもたちが集まってくる場所です。異年齢の交流を通して育まれる「人と関わる喜び」は、子どもたち自らが獲得していくものです。楽しく遊び続けようとする、そこにはルールや役割分担が必要になります。上級生は、自らの体験に基づいてそれを自覚し、下級生は上級生の言動からそのことを学びます。経験の差や体力の差に応じて役割が生まれ、それを果たすことによって遊びをより充実したものにすることができ、なかまづくりが深まっていきます。休み時間に遊んでいる輪の中へ、子どもたち個々が自ら進んで参加し、遊びの体験の中から学び、成長に伴って自覚が生まれ、その役割を遂行することで更に自信が生まれるといった機会や場の積み重ねが、子どもたちを成長させていきます(国立教育政策研究所資料から一部抜粋して改訂)。これからも、子どもたち同士が人と人との関わりを求め、楽しんでくれることを願っています。



(追伸)本校の子どもたちは、なぜか予鈴代わりの音楽(となりのトトロさんぽ)が鳴ると突然ダッシュをして教室へと戻っていきます。「授業に間に合うように戻って準備をしなくては」といった気持ちの表れなのかもしれません。いい習慣として、これからもずっと続いてほしいと思います。

「学び舎音楽会 in 水沢小学校」が開催されました。

5月26日(火)、3,4限目に、「学び舎音楽会 in 水沢小学校」が開催されました。プロの演奏家、ア・ピアチュール弦楽四重奏団の方々4名にお越しいただき、子どもたちは生の音色を身近に感じました。モーツァルト:アイネクライネナハトムジーク第1楽章、ビバルディ:合奏協奏曲集『四季』より『春』第1楽章、を最初に演奏していただきました。その後、バイオリン、ビオラ、チェロの楽器について紹介をしていただき、ボディの板にはマツやカエデの木材が使われていること、弓毛には馬のしっぽの毛が使われていることなどを教えていただきました。その後、各学年から1名の代表がみんなの前に出て、バイオリンの音を出してみました。力を入れずにやさしく柔らかく弾くのがいい音色を出すコツなのだそうです。後半は、みんなのよく知っている「天空の城ラピュタ」より「君をのせて」、「となりのトトロ」より「となりのトトロ」「さんぽ」を演奏していただきました。体を揺らして歌詞を口ずさんでいる低学年の子もいました。最後に「眠れる森の美女」より「いつか夢で」を演奏していただきました。水沢小学校の校歌も演奏していただき、感謝の気持ちを込めて、全校児童みんなで大きな声で歌いました。



この日は、CTY職員の方がケーブルニュースの取材に訪れ、代表で低中高学年それぞれ1名ずつが、公演後のインタビューを受けていました。本日22日(水)午後6時~、午後9時~、深夜0時~、昨日本校で開催されたの「学び舎音楽会」の取材内容が放映されます(地上 12ch)。また、25日(土)午後1時~、26日(日)午後6時~、今週放送分、1週間まとめでの再放送があります。よろしければご覧ください。

卒業式の子どもの服装について

水沢小学校の令和6年度の卒業式は、令和7年3月19日(水)に予定しています。卒業式は、6年間の学びや成長の姿を披露する「最後の授業」と位置づけています。市内の小学校では、羽織・袴などの着慣れない服を着用した際に「動きにくい」「トイレがしにくい」「着くずれても直せない」など、子どもが困惑して練習の成果を発揮できなかったり、式の途中で体調不良を訴えたりする問題も起こっています。四日市市教育委員会からも先日、裏面の文書配付依頼がありました。ご一読いただきますようお願いいたします。本来は6年生の保護者の皆様への配付文書ですが、今後のことも考え、全校の保護者様に見ていただけるように、掲載させていただきました。(文責 北住 昌文)

